



2022年8月12日

各位

会社名 株式会社フリークアウト・ホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 Global CEO 本田 謙  
(コード番号：6094 東証グロース)  
問合せ先 取締役 C F O 永井 秀輔  
(TEL. 03-6721-1740)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2022年2月14日に開示した2022年9月期（2021年10月1日～2022年9月30日）の通期連結業績予想数値を修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

### 1. 修正の内容

(2021年10月1日～2022年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	EBITDA	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり当 期純利益
前回発表予想(A)	百万円 29,000	百万円 1,450	百万円 1,500	百万円 1,900	百万円 —	円 銭 —
今回修正予想(B)	29,000	1,450	2,400	2,300	—	—
増減額(B-A)	0	0	900	400	—	—
増減率(%)	0	0	60.0	21.1	—	—
(参考)前期実績 (2021年9月期)	29,499	1,009	1,112	1,323	580	34.51

### 2. 差異の理由

<事業の概況>

当社が営む各事業については、まず国内事業は重点領域である動画・Connected TV領域を中心に前回業績予想修正時の想定を上回る速度で順調に成長しており、当時想定した水準を上回る利益を計上しております。また、海外事業も米国のPlaywire, LLCを中心に、円安の追い風も受けて同じく想定を上回り成長しております。さらに、第2四半期以降持分法適用関連会社であるIRISの業績

が大幅に向上し、持分法投資利益（経常利益、EBITDA に影響）が前回業績予想修正時の想定を大きく上回っております。

一方で、投資事業においては財務バランスの健全性のより一層の確保と将来における減損リスク排除の観点から、当第3 四半期において保有する銘柄のうちの一部について、減損処理を実施（約 3.0 億円）しております。

#### <各段階利益の修正の概要>

当社が主要な利益指標としている EBITDA については、事業の概況に記載のとおり、第3 四半期に実施した有価証券の減損（約 3.0 億円）の影響を吸収する形で、各事業の成長による上振れが生じております。当該上振れ分と、第4 四半期の見通しを反映して、前回業績予想修正時の 19 億円から 23 億円へと業績予想を上方修正いたしました。

次に、営業利益については、EBITDA と同様の要因に加えて、中期経営計画の達成確度が高まったことから、第4 四半期に株式報酬費用の計上（約 1.5 億円）によるマイナスの影響の発生を予定しているほか、会計上持分法投資利益が営業利益段階に含まれないため順調な IRIS の利益貢献がその計算から除外されております。そのため、営業利益は据え置きといたしました。

また、経常利益については、営業利益と同様の理由に加えて、EBITDA と同じく IRIS 社の持分法投資利益の上振れ分、第3 四半期までの為替差益（約 8.3 億円）を反映する形で上方修正いたしました。（なお、2022 年 9 月末の想定為替レートを 1 ドル 135 円で計算しております。）

最後に、親会社株主に帰属する当期純利益については、現時点ではその他の業績に影響を与える未確定要素が多いため、未定といたします。今後、合理的に予測可能となった段階で速やかに開示いたします。

### 3. 今後の見通し

今回の業績予想の修正は、あくまで、為替相場の動向を含めた現時点での最善の見通しによるものです。そのため、現時点では想定していない事象、特に為替相場の動向（上記のとおり、為替差損益を 9 月末の想定為替レート 1 ドル 135 円で計算しておりますが、為替レートが上下すると為替差損益が変動し、その分だけ経常利益の業績予想からの乖離が生じることになります）や、米国広告市場の更なる環境悪化、ロシア・ウクライナ情勢の混迷（国内広告の一部クライアントに影響しております）等の要因によって、見通しに変更がでる可能性がございます。

以上